

日曹 フロンサイド[®]水和剤

FROWNCIDE

登録番号 第17557号

種類名 フルアジナム水和剤
fluazinam

殺菌剤分類 29

性状 淡黄色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 5年

有効成分 フルアジナム 50.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 500g×20袋

■特長

1. 抗菌スペクトルの極めて広い殺菌剤です。
2. 薬剤耐性菌にも優れた効果があります。
3. 残効性・耐雨性に優れ、高い予防効果があります。
4. 植物病原菌の各感染過程を低濃度で阻害します。
5. 殺ダニ効果によるハダニの密度抑制効果があります。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害虫名及び使用方法

(2022年12月21日現在)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法	
かんきつ	そうか病 灰色かび病 ミカンサビダニ	1,000～ 2,000	200～700 ℓ/10a	収穫30日 前まで	1回	2回以内 散布は1回 以内、土壌灌注 は1回以内	散布	
	苗疫病 黒点病 ミカンハダニ	1,000						
りんご	斑点落葉病 黒星病 輪紋病	1,000～ 2,000		収穫45日 前まで				
	すす点病 すす斑病 褐斑病	2,000						
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病	1,000～ 2,000		収穫30日 前まで				
ぶどう	晩腐病 べと病 灰色かび病 枝膨病 黒とう病	2,000		開花直前 ～落弁期 但し、 収穫60日前 まで				休眠期
	黒とう病	250						
もも	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病	2,000		収穫7日 前まで				
うめ	黒星病		発芽期まで 但し、 収穫60日前 まで					
キウイフルーツ	灰色かび病 果実軟腐病		1,000～ 2,000	収穫30日 前まで				
パイナップル	心腐病	1,000	—	植付前	1回	20分間 苗浸漬		

殺菌剤 日曹フロンサイド水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
小麦	紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病 雪腐大粒菌核病	1,000	60～150 ℓ /10a	根雪前	2回以内	3回以内 〔は種前は1回 以内、は種後 は2回以内〕	
	雪腐小粒菌核病	250	25ℓ /10a				
やまのいも	葉渋病	2,000	100～300 ℓ /10a	収穫7日 前まで	4回以内	5回以内 〔植付前の土壌混和 は1回以内、植付後 の散布は4回以内〕	散布
やまのいも (むかご)				4回以内			
ばれいしょ	菌核病 疫病	1,000～ 2,000	25ℓ /10a 40ℓ /10a	収穫14日 前まで	4回以内	6回以内 〔種いも浸漬は1回 以内、植付前の土壌 混和及び植付時 の植溝散布は合計 1回以内、植付後の 散布は4回以内〕	種いも 瞬間浸漬
	疫病	500 800					
	夏疫病	2,000	100～300 ℓ /10a				
	そうか病	100	—	植付前	1回		
あずき	炭疽病 灰色かび病	1,000～ 2,000	100～300 ℓ /10a	収穫21日 前まで	3回以内	3回以内	散布
	菌核病 輪紋病	1,000		収穫14日 前まで			
いんげんまめ	炭疽病 灰色かび病	1,000～ 2,000	100～300 ℓ /10a	収穫14日 前まで	3回以内	3回以内	散布
べにばないんげん	菌核病						
にんじん	灰色かび病	1,000		収穫21日 前まで			
ごぼう	黒葉枯病						
たまねぎ	灰色かび病	500	25ℓ /10a	収穫7日 前まで	5回以内	7回以内 〔全面土壌混和は 1回以内、苗根部 浸漬は1回以内、 散布は5回以内〕	5分間 苗根部浸漬
	灰色腐敗病 べと病 灰色かび病	1,000～ 2,000	100～300 ℓ /10a				
	白色疫病	1,000					
	乾腐病	50	—	定植直前	1回		
らっきょう	灰色かび病	2,000	100～300 ℓ /10a	収穫14日 前まで	5回以内	5回以内	散布
	白色疫病	1,000		収穫終了後 但し、 秋期まで			
アスパラガス (露地栽培)	茎枯病 斑点病	1,000～ 2,000	100～300 ℓ /10a	収穫30日 前まで	4回以内	5回以内 〔は種前の土壌混和 及び苗床灌注は 合計1回以内、株元 散布及び散布は 4回以内〕	株元散布
てんさい	根腐病	1,000					
	黒根病	100	3ℓ /m ²				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
茶	炭疽病 輪斑病 網もち病 新梢枯死症 (輪斑病菌による) 灰色かび病	2,000	200～400 ℓ/10a	摘採14日 前まで	1回	1回	散布
食用ゆり	葉枯病	1,000～ 2,000	100～300 ℓ/10a		6回以内	8回以内 (球根瞬間浸漬は 2回以内、 散布は6回以内)	球根 瞬間浸漬
	鱗茎さび症	50～ 200	—	植付前	2回以内		
チューリップ	灰色かび病 褐色斑点病	2,000～ 4,000	100～300 ℓ/10a	発病初期	7回以内	7回以内	散布
	球根腐敗病 皮腐病	100～ 200	—	植付前	1回		15分間 球根浸漬
ゆり	鱗茎さび症					3回以内	球根 瞬間浸漬
	葉枯病	2,000	100～300 ℓ/10a	発病初期	3回以内		散布
たばこ	菌核病	1,000	100～200 mℓ/株	大土寄期 まで	1回	1回	株元灌注

作物名	適用病害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	フルアジナムを含む農薬の総使用回数	使用方法
		薬量(g/10a)	希釈水量(ℓ/10a)				
ばれいしょ	粉状そうか病 塊茎褐色輪紋病	600	100	植付前	1回	6回以内 (種も浸漬は1回 以内、植付前の土壌 混和及び植付時 の植溝散布は合計 1回以内、植付後の 散布は4回以内)	全面散布 土壌混和
チューリップ	条斑病 微斑モザイク病			7回以内			
小麦	縞萎縮病			は種前	3回以内 (は種前は1回以内、 は種後は2回以内)		

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 保護効果主体の薬剤であるため、病原菌に感染した後の処理では効果が不十分な場合があるので注意してください。
3. かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - (1) レモンには薬害を生じるので使用をさけてください。
 - (2) ネーブル、ハッサク、清見等、品種によっては薬害を生じる場合があるので注意してください。
 - (3) 病害とハダニ類の同時防除に使用する場合には、かけ残しのないようについていねいに散布してください。
 - (4) 黒点病に対する防除は、そうか病、灰色かび病との同時防除として使用してください。なお、多発時の黒点病に対しては効果が劣ることがあるので注意してください。
4. りんごの褐斑病に対しては、多発時には効果がやや不十分な場合があるので注意してください。
5. なしに使用する場合、展葉期の散布は品種により、葉に薬害を生じるので注意してください。特に幸水、豊水、新水等には薬害を生じやすいので、発芽期から落花後30日までの間は使用をさけてください。
6. ぶどうに使用する場合、使用時期を誤ると葉や果実に薬害を生じるので使用時期を厳守してください。なお、ネオマスカットは特に薬害を生じやすいので使用をさけてください。

殺菌剤 日曹フロンサイド水和剤

7. 本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので注意してください。特に、なし、ぶどう、もも及びうめでは十分注意が必要です。なお、うめについては発芽期までの使用に留めてください。
8. きゅうり、レタス等には薬害を生じるおそれがあるので、周辺にそれらの作物がある場合にはかからないように注意して散布してください。
9. 全面散布土壌混和で使用する場合、所定量の薬量を均一に散布し、土壌と十分混和してください。降雨直後の処理は混和むらの原因となるので、さけてください。
10. ばれいしょ、たまねぎ及び小麦に対して少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用してください。
11. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
12. 使用に当たっては使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意

13. 皮ふ感作性を有するため、皮ふかぶれ等を生じることがあるので、以下の点に注意してください。
 - (1) かぶれやすい体質の人及び本剤または他剤においてかぶれた経験のある人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触はさけてください。
 - (2) 薬液調製時及び散布などの作業の際は、帽子、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
 - (3) 降雨時または樹木が濡れている場合には、作業を行わないでください。
 - (4) 剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業を済ませてから散布してください。
 - (5) 散布後の入園はできる限り期間をおいてください。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では少なくとも7～10日間の期間をあけてください。
 - (6) 散布後の入園の際も、帽子、保護メガネ、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。
 - (7) 散布等の作業後及び摘果などのため散布後入園し作業した後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
 - (8) 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
 - (9) 施設内では使用しないでください。
 - (10) 高温、多湿時の長時間の散布及び作業はさけてください。
 - (11) 苗床で本剤を使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないよう注意してください。
14. 粉末は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
15. 皮ふに対して刺激性があるので、皮ふに付着しないよう注意してください。皮ふに付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすようにしてください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

○使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。